東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 23 号（2018), pp.189-200.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.23 (2018), pp.189-200.

<特集「否定、形容詞と連体修飾複文」>

マレーシア語の否定と連体修飾複文

Negation and nominal modifier clauses in Malay

野元 裕樹[1]，ムハッマド・ファリス・シノン・ビン・マスニン[2]
Hiroki Nomoto, Mohd Farez Syinon bin Masnin

[1] 東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies, School of Language and Culture Studies
[2] ゼンマーケット株式会社
ZenMarket Inc.

要旨:本稿ではマレーシア語の否定と連体修飾複文を概観する．データは，本号の特集「否定，形容詞と連体修飾複文」のためのアンケートに基づく．

Abstract: This article overviews negation and nominal modifier clauses in Malay. The data is based on the questionnaire prepared for the special topic of this volume "Negation, adjectives and nominal modifier clauses."

キーワード:否定，連体修飾複文，関係節，補文，マレーシア語
Keywords: negation, nominal modifier clauses, relative clauses, complementation, Malay

1. はじめに

本稿では，特集のアンケート項目に基づき，マレーシア語の否定と連体修飾複文について概観する．それぞれ第 2 節，第 3 節で扱う．アンケート項目のうち，これらの節で議論されないものは，第 4 節に収録する．特集アンケートでの例文番号は【　】に入れて示す．

本稿で示すデータは，マレーシア国内の地域方言の差を超えて使われる，マレーシア語の標準方言のものである．標準方言においては，書き言葉と話し言葉があり，2 つの変種の間の差は大きく，ダイグロッシア状況を生んでいる．本稿のデータは基本的に話し言葉のものである．例文はムハッマド・ファリス・シノンが特集アンケートの日本語文に基づいて作文した．

2. 否定

マレーシア語の否定辞には，tidak（口語形：tak)，bukan，belum，jangan の 4 つがある．これらの使い分けには，焦点の有無，述語の統語範疇，相，モダリティが関与する．まず，2.1 節で焦点を伴わない，中立的な否定を扱う．焦点を伴う場合は，否定辞の用法が異なるため，2.2 節で別に論じる．最後に，2.3 節で，言語類型論的に興味深い，表層の統語構造と否定辞の作用域の対応関係について触れる．

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

2.1. 中立的否定

中立的否定とは，否定される要素が焦点でない，つまり代替要素（alternative）との対比を伴わないような否定をいう．名詞述語文の否定では，(1)のように，bukan が用いられる．

(1) Ini *bukan* buku saya.[1] 【1】
this not book 1SG
「これは私の本ではない.」

形容詞述語文(2)および動詞述語文(3)の否定では，tidak/tak が用いられる．

(2) Anjing ini *tak* besar. 【6】
dog this not big
「この犬は大きくない.」

(3) a. Orang itu *tak* datang hari ini. 【10】
person that not come today
「今日はあの人は来ない.」
b. Orang itu *tak* bawa buku itu pulang. 【11】
person that not bring book that return
「あの人はその本を持って行かなかった.」

形容詞述語文で，主語が表す個体が形容詞の表す特性を文脈上決定される標準より低い程度でしか持たない場合，(4)のように，tidak/tak berapa「あまり～ない」や tidak/tak begitu「それほど～ない」のような表現が用いられる．(4)から tak を除いた文(5)は非文であるので，(4)の文は berapa besar を述語とするような形容詞述語文の tak による否定ではない．tak berapa は，ひとかたまりの否定要素として機能している．つまり，(4)は(6a)ではなく(6b)のような構造を持つ．

(4) Anjing ini *tak berapa* besar. 【7】
dog this not how.much big
「この犬はあまり大きくない.」

(5) *Anjing ini berapa besar.
dog this how.much big

(6) a. Anjing ini [$_{Neg}$ tak] [$_{AP}$ berapa besar].
b. Anjing ini [$_{Neg}$ tak berapa] [$_{AP}$ besar].

存在文(7)および所在文(8)では動詞 ada「ある，いる」を用いるため，否定には tak が用いられる．tak ada が一語になった takde，tiada「ない」という語形も存在する[2].

---

[1] ライプツィヒグロス規則にない記号：PART: particle.
[2] 古典マレー語では，tiada が現代語の tidak/tak に相当する通常の否定辞として用いられていた．現代語

(7) Di bilik ini {*tak ada* / *takde*/ *tiada*} kerusi. 【2】
at room this not be not.be not.be chair
「この部屋には椅子が｛ありません／ない｝.」

(8) Buku itu {*tak ada* / *takde* / *tiada*} di bilik ini. 【5】
book that not be not.be not.be at room this
「その本はこの部屋に｛ありません／ない｝.」

助動詞を含む文の否定では否定辞が助動詞の前に置かれるが，完了の助動詞 sudah と telah は例外である．sudah/telah の意味の否定，つまり未然の意味を表すのには，特別な否定辞 belum「（まだ）～ない」が存在する．(9)の否定は，通常の否定辞 tidak/tak を用いた(10a)ではなく，補充形の belum を用いた(10b)のようになる．相は，類型論的に補充形の否定辞がよく観察される意味範疇である（cf. Zeshan 2013）.

(9) Hari ini orang itu *sudah/telah* datang sini.
today person that PFV come here
「今日あの人はもうここに来た.」

(10) a. *Hari ini orang itu *tidak/tak* *sudah/telah* datang sini.
today person that NEG PFV come here
b. Hari ini orang itu *belum* datang sini.
today person that NEG.PFV come here
「今日はあの人はまだ来ていない.」

希求を表す節では，(11)のように否定辞 jangan が用いられる．しかし，(12)のように tak を用いることもある．(12)の文では jangan は不自然である．どのような場合に jangan が容認されるかは，今後の検討課題である.

(11) … Rasulullah SAW menentukan waktu kepada kami tentang menggunting kumis, mengerat kuku, mencabut bulu ketiak dan mencukur ari-ari
supaya *jangan* di-biarkan lebih dari empat puluh hari.[3]
so.that not PASS-let more than forty day

では，一語の「ない」である takde/tiada は通常の否定辞ではなく，控え目な否定を表す．(i)に，現代語での takde の使用例を示す．存在・所在文ではないので，takde を tak に置き換えても非文にはならない.

(i) ... muka dia *takde*-lah cute sangat tapi lagi best dari teddybear.
face 3SG not.be-PART cute very but more good than teddy.bear
「…彼女の顔はすごいかわいい**ってわけじゃない**けど，テディベアよりはいいね.」
（http://mohamadnor.blogspot.com/2006_12_01_archive.html, MALINDO Conc (Nomoto et al. 2018)を用いて 2019 年 5 月 1 日にライプツィヒコーパスコレクション(Goldhahn et al. 2012)の ZSM MXD2012 サブコーパスから採集）

[3] http://hadisrasullulah.blogspot.com/2010/05/himpunan-hadis-hadis-rasullullah-4.html （MALINDO Conc (Nomoto et al. 2018)を用いて 2019 年 5 月 3 日にライプツィヒコーパスコレクション(Goldhahn et al. 2012)の ZSM MXD2012 サブコーパスから採集）

「…預言者様（神の祝福あれ）は，口髭を整えること，爪を切ること，腋毛を抜くこと，陰毛を剃ることについて，40 日以上放置しないようにと，時間をお決めになった.」

(12) Cakap perlahan-lahan -lah, supaya orang tu *tak*/**jangan* dengar. 【18】
speak quietly -PART so.that person that not not hear
「あの人に聞こえないように，小さな声で話してくれ.」

命令文では逆に，(13)に示したように，通常の否定辞 tak を用いることができない.

(13) a. *Jangan*/**Tak* lari! 【15】
not not run
「走るな！」
b. *Jangan*/**Tak* cakap kuat-kuat. 【16】
not not speak loudly
「大きな声を出すな！」

2.2. 焦点を伴う否定

否定される要素が焦点である，つまり代替要素との対比を伴う場合，述語の統語範疇にかかわらず，否定辞には常に bukan が用いられる．名詞述語文では，中立的否定でも bukan が用いられるため，中立的否定と焦点を伴う否定の区別が曖昧になる[4]．例文(14)–(15)は，野元（2016）からの例である．

(14) Ini *bukan* [NP kekasih saya]. Ini adik saya.
this not lover 1SG this younger.sibling 1SG
「これは私の恋人ではありません．弟（妹）です.」

(15) Dia *bukan* [AP bodoh]. Sebaliknya, dia sangat pandai dalam subjek lain.
3SG not stupid conversely 3SG very clever in subject other
「彼（女）は馬鹿というわけではありません．というか，他の科目では非常によくできるんです.」

(16) Kini, aku *bukan* [VP mengurut], tapi meraba.[5]
now 1SG not massage but touch
「今や，僕はマッサージするのではなく，さすっていた.」

相や法の助動詞を含む場合にも，焦点を伴う否定では，bukan が用いられる．(17)では，母親が動かないのが眠っているためでなく，他の理由のためであることが bukan の使用から伝わる．(18)の文の前の

[4] Kroeger (2014)は，本稿のいう「中立的否定」と「焦点を伴う否定」を内部［述語］否定（internal [predicate] negation）と外部［文］否定（external [sentential] negation）（Lyons 1977: 769; Horn 1989: Ch. 7）の語彙的区別として分析している．内部否定は命題の述語を否定して否定命題を作る．一方，外部否定は命題全体を否定する主節現象（main clause [root] phenomenon）である．

[5] http://ceritaseksfantasi.blogspot.com/2011/06/guru-tuisyen.html（MALINDO Conc (Nomoto et al. 2018)を用いて 2019 年 5 月 2 日にライプツィヒコーパスコレクション(Goldhahn et al. 2012)の ZSM WEB2012 サブコーパスから採集）

文脈では，スンニ派とシーア派の対立がもう何世紀も続く論争を経て存続することが述べられている．(18)の文で bukan の使用の背後にあるのは，シーア派である聞き手がスンニ派に転向することなどなく，シーア派であり続けるだろうという話し手の考えである．

(17) Setelah menggerakkan ibu-nya berkali-kali, Kay merasakan ibu-nya itu *bukan* *sedang* tidur.[6]
after move mother-3 many.times Kay feel mother-3 that not PROG sleep
「何度も母親を揺すった後，ケイは母親が眠っているのではないと感じ取った．」

(18) Andai aku pulak menang berdialog sekali pun hang *bukan* *akan* jadi sunni pun.[7]
if 1SG on.the.other.hand win dispute at.all 2SG not will be Sunni at.all
「仮に俺が議論に勝ったとしても，お前はスンニ派になったりなどしない．」

完了の助動詞 sudah/telah の中立的な否定では，他の助動詞と違い，否定辞 tidak が用いられないことを前節で述べた．しかし，焦点を伴う否定の場合には，他の助動詞との違いはなく，bukan が用いられる．(19)では，助動詞 sudah の口語形 dah が bukan の後に生起している．この文は，前の文脈にある sudah pergi「もう行った」という表現が「死ぬ」の婉曲表現ではなく，字義通りの意味であることを述べている．

(19) Bukan macam tu nak, Farid *bukan* *dah* mati tapi Farid terpaksa pergi sambung berlajar.[8]
not like that child Farid not PFV die but Farid have.to go continue study
「そうじゃないのよ，ファリッドはあの世に行ったんじゃなくて，進学で行かなくちゃならなかったの．」

焦点を伴う否定の bukan は，副詞形成の接尾辞-nya[9]を付けて，bukannya とすることもできる．この文では，bukan が harganya mahal「値段が高い」という文の前に来ている．意味的には，bukan は否定の命題「値段が高くない」を作るのでなく，肯定の命題「値段が高い」を否定している．

(20) ［私は買わなかった．しかし，…］
Bukan-nya harga-nya mahal. 【14】
not-NYA price-3 expensive
「値段が高いというわけではない．」

肯定の命題を否定する bukan は，その命題を表す文の前でなく，(21)のように，その中に入り込むこ

[6] http://an-nurkasih.blogspot.com/（MALINDO Conc (Nomoto et al. 2018)を用いて 2019 年 5 月 2 日にライプツィヒコーパスコレクション(Goldhahn et al. 2012)の ZSM WEB2012 サブコーパスから採集）
[7] http://nikabduh.wordpress.com/2008/06/18/anasir-syiah-dalam-pas-2/（MALINDO Conc (Nomoto et al. 2018)を用いて 2019 年 5 月 2 日にライプツィヒコーパスコレクション(Goldhahn et al. 2012)の ZSM MXD2012 サブコーパスから採集）
[8] http://muzri.wordpress.com/2009/11/page/36/（MALINDO Conc (Nomoto et al. 2018)を用いて 2019 年 5 月 2 日にライプツィヒコーパスコレクション(Goldhahn et al. 2012)の ZSM MXD2012 サブコーパスから採集）．berlajar は綴り間違い．正しくは，belajar.
[9] 査読者から副詞形成の接尾辞-nya の意味は何かという質問があった．ここでの-nya は，特に意味を追加することはなく，単にそれが付加した語が副詞であることを表す．

とも可能である．

(21) Saya *bukan-nya* cakap macam tu sebab saya rasa nak buat awak marah. 【19】
1SG not-NYA say like that because 1SG feel want make 2SG angry
「私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない．」

肯定の命題でなく，否定の命題が否定される場合，否定文の否定，つまり二重否定になる．二重否定の文では，(22)に示したように，述語の統語範疇に関わらず，必ず bukan が用いられる．斜体の bukan を tak にすることはできない．(22a)では，焦点を伴う否定の bukan には接尾辞-nya がないと，二度同じ語形が続くため，不自然に響く．二重否定の文「p でなくはない」は，「そうでなく，p」とか「そうでなく，p でも p でなくもない」のような意味を常に伴うようである．そのため，二重否定の文は焦点を伴う否定の一種であると考えられる．

(22) a. Ali *bukan*ʔ*(-nya)* bukan [NP kawan saya] sebab kami sekolah sama dulu.
Ali not not friend our because 1PL.EXCL school same before
「昔同じ学校だったから，アリは私の友達でなくはない．」
b. Sup ini *bukan* tak [AP sedap].
soup this not not delicious
「このスープはおいしくなくはない．」
c. Saya bukan tak [VP suka buah durian].
1SG not not like fruit durian
「私はドリアンが好きでなくはない．」

命題内容には関係しないメタ言語的否定，つまり言語表現そのものを否定する場合にも，常に bukan が用いられる．(23)の文で，否定の対象となっているのは，命題内容自体ではなく，それを伝えるために用いられている言語表現（具体的には mudah という語）である．muda「若い」も mudah「易しい」も形容詞なので，焦点を伴う否定の bukan の他に中立的否定の tak も可能なはずだが，実際には bukan のみが容認される．

(23) ［muda を mudah と間違えて発音した外国人のマレーシア語学習者に対して］
a. Awak *bukan* “mudah” tapi “muda.”
2SG not MUDAH but MUDA
「君は mudah（易しい）じゃなくて，muda（若い）です．」
b. #Awak *tak* mudah, tapi muda.
2SG not easy but young
（「君は易しいんじゃなくて，若いです．」）

Horn (1989)のいうメタ言語的否定は，より限定的な概念である．すなわち，一般化された会話の含意（generalized conversational implicature）―会話の含意のうち，特定の文脈が設定されなくても生じるもの―の否定である．(24)に示したように，やはり bukan のみが容認可能である．この文で否定されているのは，satu「1」が生み出す「1 より多くない」という会話の含意であり，命題内容そのものではない．

(24) a. Aku *bukan* beli satu tau, aku beli 6 buah sekaligus!
1SG not buy one know 1SG buy six CLF at.once
「私 1 つ買ったんじゃないのよ，6 つまとめて買ったの.」
b. #Aku *tak* beli satu tau, aku beli 6 buah sekaligus!
1SG not buy one know 1SG buy six CLF at.once

(Kroeger 2014: 142)

2.3. 否定辞の作用域と表層の統語構造

否定辞は作用域を取る要素であり，数量表現など他の作用域を取る要素と作用域の広さにおいて競合する．英語のことわざ(25)は同一の表層構造で，(26)に示した，作用域の異なる 2 通りの解釈が可能である．

(25) *All* that glitters is *not* gold.
「すべての光るものが金ではない.」

(26) a. all > not：すべての光るもの x について，「x は金でない」が真である（全否定）
「光るものには金であるものはない.」
b. not > all：「すべての光るもの x が金である」は真でない（部分否定）
「光るものには金であるものもあれば，金でないものもある.」

部分否定のみを表すには，(27)のように，否定辞が数量詞を必ず統御する位置に生起するような構造の文が用いられる．

(27) *Not all* that glitters is gold.
「すべての光るものが金であるわけではない.」

マレーシア語では，英語と違い，否定辞と数量詞の作用域の関係は表層の構造と常に同じになる．そのため，英語のように同一の語順で解釈が曖昧になることはない．例えば，英語のことわざ(25)のマレーシア語訳は，解釈により異なる．

(28) a. semua「すべて」> bukan「ない」
Semua yang bergemerlapan *bukan* emas.
all REL glitter not gold
「光るものには金であるものはない.」
b. bukan「ない」> semua「すべて」
Bukan semua yang bergemerlapan emas.
not all REL glitter gold
「光るものには金であるものもあれば，金でないものもある.」

作用域の解釈が表層の語順に従うため，数量詞 kesemua「すべての」が否定辞 tak を統御する構造の(29)の文には，全否定の意味しかない．部分否定には，統御関係が逆の構造を持つ(30)の文が用いられる．(30a)では，否定辞 tak が数量詞 semua を直接修飾している．(30b)は，否定辞 bukan が文を埋め込む形の構造

になっている（cf. (20)）.

(29) *Kesemua* pelajar *tak* ambil bahagian.[10] 【12】
all student not take part
「すべての学生が参加しなかった.」

(30) a. [*Tak* *semua*] pelajar ambil bahagian. 【13】
not all student take part
「すべてではない学生が参加した.」
b. *Bukan* [*kesemua* pelajar ambil bahagian].
not all student take part
「すべての学生が参加したわけではない.」

推量の否定では，否定辞が推量の副詞より広い作用域を取るため，(31)のように，否定辞 tak が推量の副詞 mungkin を統御する構造を取る．日本語の「まい」のような特別な形式はない．否定の推量では，(32)のように，語順が逆になる．

(31) tak「ない」> mungkin「だろう」
Esok *tak* *mungkin* hujan.
tomorrow not maybe rain
「明日は雨は降るだろうことはない（＝降り得ない）.」

(32) mungkin「だろう」> tak「ない」
Esok *mungkin* *tak* hujan. 【17】
tomorrow maybe not rain
「明日は雨は降らないだろう.」

3. 連体修飾複文

3.1. 関係節

マレーシア語の関係節には，関係詞 yang により導入されるものと yang なしに完全な節が修飾される語の直後に続くものがある．関係詞 yang を伴う関係節は，主名詞が関係節内の述語の項である場合と再述代名詞が生起する場合である．(33)では動詞の内項が，(34)では動詞の外項が関係化されている．いずれも，関係詞 yang が義務的である．(34)は，前置された疑問詞 siapa「誰」の後に明示的な主名詞が生起しない自由関係節が続く，疑似分裂文である．以下の例では，関係節など議論の対象となっている節を[ ]で囲んで示すことにする．

---

[10] (i)のように，数量詞を遊離させることも可能である．

(i) Pelajar *kesemua*-nya *tak* ambil bahagian.
student all-3 not take part
「学生は全員参加しなかった.」

(33) Buku [*(yang) saya beli semalam] ada di mana? 【20】
book REL 1SG buy yesterday be at where
「私が昨日買ってきた本はどこにある？」

(34) Siapa [*(yang) bawa buku tu]? 【21】
who REL bring book that
「その本を持って来たのは誰？」

(35)の文では sebatang kaki「一本の脚」の所有者が関係化され，再述代名詞-nya として生起している．口語では再述代名詞-nya が生起しないことも多い．

(35) Kerusi [*(yang) dah patah se-batang kaki(-nya)] tu dah di-buang. 【23】
chair REL PFV break one-CLF leg-3 that PFV PASS-dispose
「脚が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった.」

その他の場合，すなわち，主名詞が関係節内の述語の項でなく，再述代名詞も生起しない場合には，関係詞 yang は生起できない．(36)の文は，場所の付加詞が関係化されていると言える例である．このような例では，di mana「どこ」が節頭に生起し，関係代名詞として機能することもある．

(36) a. Bilik ini bilik [(*yang) kami buat kerja]. 【22】
room this room REL 1PL.EXCL do work
「この部屋が私たちの仕事をしている部屋です.
b. Saya pergi ke tempat [(*yang) orang itu menunggu]. 【27】
1SG go to place REL person that wait
「私はその人が待っている所に行った.」

(37)の文は，時の付加詞が関係化されていると言える例である．このような表現は可能ではあるものの，同じ内容であれば，(38)のように「～する時」という意味の接続詞を用いて表現する方が普通である．

(37) Saya tengah makan pada ketika [(*yang) orang itu datang]. 【26】
1SG PROG eat at time REL person that come
「私はその人が来た時にご飯を食べていた.」

(38) Saya tengah makan semasa/ketika orang itu datang.
1SG PROG eat when when person that come
「私はその人が来た時，ご飯を食べていた.」

(39)は，関係節内に主名詞に対応する表現があるとは想定しにくい，いわゆる「外の関係」の連体修飾節である．やはり，関係詞 yang は生起できない．同じ内容は，(40)のように，ketukan pintu「ドアの叩き」という名詞句による修飾でも表現できる．

(39) Kedengaran bunyi [(*yang) pintu di-ketuk]. 【24】
hear sound REL door PASS-knock
「ドアを叩いている音が聞こえる.」

(40) Kedengaran bunyi [NP ketukan pintu].
hear sound knock door
「ドアのノック音が聞こえる.」

(41)–(42)に示したように，マレーシア語には主要部内在型関係節は存在しない.

(41) a. *Saya makan [yang epal ada atas pinggan itu]. 【32】
1SG eat REL apple be on plate that
b. *Saya makan [yang ada epal atas pinggan itu].
1SG eat REL be apple on plate that
意図される解釈：「私はリンゴがあの皿の上にあったのを食べた.」

(42) *Saya tangkap [yang kucing masuk ke rumah]. 【33】
1SG catch REL cat enter to house
意図される解釈：「私はネコが家に入ってきたのを捕まえた.」

3.2. 内容節

内容節は，補文標識 yang または bahawa により導入される．yang は話し言葉で，bahawa は書き言葉で用いられることが多い．これらなしに，内容節が続くことも可能である．(43)のように内容節が名詞を修飾する場合も, (44)および(46)のように内容節が思考動詞や発言動詞の項になる場合も同じである. (44)の日本語訳のように形式名詞「こと」に相当する名詞を内容節が修飾するような文は容認されない(45). (46)を直接話法で書き換えると(47)のようになる.

(43) Betul ke khabar angin [yang/bahawa/Ø orang tu dah kahwin]? 【25】
true Q rumor that/that/Ø person that PFV marry
「あの人が結婚したという噂は本当か？」

(44) Saya tahu [yang/bahawa/Ø orang itu datang ke sini semalam]. 【30】
1SG know that/that/Ø person that come to here yesterday
「私はその人が昨日ここに来たことを知っている.」

(45) *Saya tahu hal/perkara [yang/bahawa/Ø orang itu datang ke sini semalam].
1SG know thing/thing that/that/Ø person that come to here yesterday

(46) ［5 月 1 日に話し手のマレーシアからの友人は話し手に「今日，日本に着いた」と言った．そのことについて，話し手は 5 月 2 日に別の友人に伝えている．］
(Semalam) Dia cakap [yang/bahawa/Ø dia sampai di sini semalam]. 【31】
yesterday 3SG say that/that/Ø 3SG reach at here yesterday
「(昨日）彼は彼が昨日ここに着いたと言った．」

(47) (Semalam) Dia cakap, "Saya sampai di sini hari ini." 【31】
yesterday 3SG say 1SG reach at here yesterday
「(昨日）彼は『私は今日ここに着いた』と言った．」

4. その他

4.1. 不定表現＋とりたて助詞 pun「も」

とりたて助詞（focus-sensitive particle）の pun「も」は，焦点が尺度（scale）の下限に位置することを表す（野元，アズヌール・アイシャ 2017）．(48)では「一つの椅子」，(49)では「誰か」という不定表現に pun を付加することで，「この部屋に椅子がない」，「その部屋に人がいない」ことが反駁しがたい事実であることを表している．

(48) a. Di bilik ini tiada se-buah kerusi *pun*. 【3】
at room this not.be one-CLF chair PUN
b. Di bilik ini se-buah kerusi *pun* tiada.
at room this one-CLF chair PUN not.be
「この部屋には一つも椅子がない．」

(49) a. Di bilik itu tiada sesiapa *pun*. 【4】
at room that not.be anyone PUN
b. Di bilik itu sesiapa *pun* tiada.
at room that anyone PUN not.be
「その部屋には誰もいない．」

4.2. 形容詞の比較級・最上級

形容詞の比較級は，(50)のように，lebih「より～」＋形容詞で表す．比較の対象は「～から」という意味の前置詞 daripada（または dari）により導入される．

(50) Anjing ini *lebih* *besar* daripada anjing itu. 【8】
dog this more big than dog that
「この犬はあの犬より大きい．」

最上級は，paling「一番～」＋形容詞(51a)または形容詞に接頭辞 ter-を付加した形(51b)で表す．

(51) a. Anjing ini *paling* *besar* antara anjing-anjing itu. 【9】
dog this most big among dog.PL that

b. Anjing ini yang *ter-besar* antara anjing-anjing itu.
dog this REL TER-big among dog.PL that
「この犬がその犬たちの中で一番大きい.」

4.3. 知覚動詞の補文

知覚動詞の補文は, 3.2 節で見た内容節である補文よりも構造的に小さい. (52)–(53)の補文の先頭には, yang/bahawa（英：that）, supaya/agar（英：so that）, untuk（英：for, to）のいずれの補文標識も生起できない. 一方, 補文中には相を表す助動詞が生起できるので, 当該の構成素は単純な動詞句よりも大きい.

(52) Saya tengok/nampak [orang itu (telah) berlari]. 【28】
1SG look/see person that PFV run
「私はその人が走っていったのを見た.」

(53) Malam semalam, saya dengar [mereka sedang bercakap-cakap]. 【29】
night yesterday 1SG hear 3PL PROG talk
「昨日の夜, 私は彼らがしゃべっているのを聞いた.」

参考文献

Goldhahn, Dirk, Thomas Eckart and Uwe Quasthoff. 2012. Building large monolingual dictionaries at the Leipzig Corpora Collection: From 100 to 200 languages. In *Proceedings of the Eighth International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC'12)*.

Horn, Laurence R. 1989. *A Natural History of Negation*. Chicago: University of Chicago Press.

Kroeger, Paul. 2014. External negation in Malay/Indonesian. *Language* 90: 137–184.

Lyons, John. 1977. *Semantics*. Cambridge: Cambridge University Press.

野元裕樹. 2016.『Bahasa Melayu TUFS 文法』東京外国語大学. http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ase/mal/tatabahasa_web/index.html

野元裕樹, アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー. 2017.「マレーシア語の取り立て表現と不定表現」『語学研究所論集』22: 121–131. 東京外国語大学.

Nomoto, Hiroki, Shiro Akasegawa and Asako Shiohara. 2018. Building an open online concordancer for Malay/Indonesian. The 22nd International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL)での発表論文.

Zeshan, Ulrike. 2013. Irregular negatives in sign languages. In Matthew S. Dryer & Martin Haspelmath (eds.) *The World Atlas of Language Structures Online*. Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology. (http://wals.info/chapter/139, アクセス日：2019 年 5 月 5 日.)

執筆者連絡先: nomoto@tufs.ac.jp (野元), farez_syinon@yahoo.com (ムハッマド・ファリス・シノン)

原稿受理:2019 年 5 月 8 日